

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポーシジョンの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.5.11-17

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポーシジョンの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

16:13 あなたの打ち場とあなたの酒ぶねから、取り入れが済んだとき、七日間、仮庵の祭りをしなければならぬ。

16:14 この祭りのときには、あなたも、あなたの息子、娘、男女の奴隷、あなたの町囲みのうちにいるレビ人、在留異国人、みなしご、やもめも共に喜びなさい。

16:15 あなたの神、主のために、主が選ぶ場所で、七日間、祭りをしなければならぬ。あなたの神、主が、あなたのすべての収穫、あなたの手のすべてのわざを祝福されるからである。あなたは大いに喜びなさい。

16:16 あなたのうちの男子はみな、年に三度、種を入れないパンの祭り、七週の祭り、仮庵の祭りのときに、あなたの神、主の選ぶ場所で、御前に出なければならぬ。主の前には、何も持たずに出てはならない。

16:17 あなたの神、主が賜った祝福に応じて、それぞれ自分のささげ物を持って出なければならぬ。

16:18 あなたの神、主があなたに与えようとしておられるあなたのすべての町囲みのうちに、あなたの部族ごとに、さばきつかさと、つかさたちを任命しなければならぬ。彼らは正しいさばきをもって民をさばかなければならぬ。

16:19 あなたはさばきを曲げてはならない。人をかたよって見てはならない。わいろを取ってはならない。わいろは知恵のある者の目をくらませ、正しい人の言い分をゆがめるからである。

16:20 正義を、ただ正義を追い求めなければならぬ。そうすれば、あなたは生き、あな



たの神、主が与えようとしておられる地を、自分の所有とすることができる。

16:21 あなたが築く、あなたの神、主の祭壇のそばに、どんな木のアシェラ像をも立ててはならない。

16:22 あなたは、あなたの神、主の憎む石の柱を立ててはならない。

「仮庵の祭り」とは、仮の住家で暮らすことを表すもので、イスラエルの民が荒野を移動した史実にちなんでいます。これは約束の地に入るまでは、仮の住まいなのだということです。これは普遍的な真理の雛形であって、それは天の御国に行くまでこの世では仮の住まいなのだということです。

このような人生観は永遠の命を確信し、天国を希望としていくので、何が起きてもそれを乗り越える信仰が沸いてくるでしょう。またこの世の過ぎ行く価値観に惑わされないで、貧富も貴賤も強者弱者の差別を消し去ります。ですから「…息子、娘、男女の奴隷、あなたの町囲みのうちにいるレビ人、在留異国人、みなしご、やもめも共に」祝い、喜ぶことができるのです。私たちも仮庵の人生観に立って、全ての人と人生を分かち合う心を持ちましょう。

「主が賜った祝福に応じて、それぞれ自分のささげ物を…」とあります。神様は生きた方ですから、私たちは人格的な交わりをします。私たちからも主に向かうのです。それは祈りとささげ物です。恵みは一時的なものであって、私たちは主と取引をするではありません。私たちから物は「主が賜った祝福に応じた」ものなのです。感謝のささげ物なのです。「何も持たずに出てはならない。」とありますから、私たちは感謝をささげましょう。祈りの言葉だけではなく、実際に自分自身にあるものからささげましょう。

また偏見やわいろで正義を曲げないように、偶像を立てないようにとの命令があります。主の祭壇のそばなら偶像の影響もないだろうと思ってはならないということでしょう。主の恵みによって偶像の害が薄くなるということはないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



17:1 悪性の欠陥のある牛や羊を、あなたの神、主にいけにえとしてささげてはならない。それは、あなたの神、主の忌みきらわれるものだからである。

17:2 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる町囲みのどれでも、その中で、男であれ、女であれ、あなたの神、主の目の前に悪を行ない、主の契約を破り、

17:3 行ってほかの神々に仕え、また、日や月や天の万象など、私が命じもしなかったものを持つ者があり、

17:4 それがあなたに告げられて、あなたが聞いたなら、あなたはよく調査しなさい。もし、そのことが事実で、確かであり、この忌みきらうべきことがイスラエルのうちに行なわれたのなら、

17:5 あなたは、この悪事を行なった男または女を町の広場に連れ出し、男でも女でも、彼らを石で打ちなさい。彼らは死ななければならない。

17:6 ふたりの証人または三人の証人の証言によって、死刑に処さなければならない。ひとりの証言で死刑にしてはならない。

17:7 死刑に処するには、まず証人たちが手を下し、ついで、民がみな、手を下さなければならない。こうしてあなたがたのうちから悪を除き去りなさい。

17:8 もし、町囲みのうちで争い事が起こり、それが流血事件、権利の訴訟、暴力事件で、あなたのさばきかねるものであれば、ただちに、あなたの神、主の選ぶ場所に上り、

17:9 レビ人の祭司たち、あるいは、その時に立てられているさばきつかさのもとに行き、

尋ねなさい。彼らは、あなたに判決のことばを告げよう。

17:10 あなたは、主が選ぶその場所で、彼らが告げる判決によって行ない、すべて彼らがあなたに教えることを守り行ないなさい。

17:11 彼らが教えるおしえによって、彼らが述べるさばきによって行なわなければならない。彼らが告げる判決から右にも左にもそれてはならない。

17:12 もし人が、あなたの神、主に仕えてそこに立つ祭司やさばきつかさに聞き従わず、不遜なふるまいをするなら、その者は死ななければならない。あなたがイスラエルのうちから悪を除き去るなら、

17:13 民はみな、聞いて恐れ、不遜なふるまいをすることはもうないであろう。

主にささげる物は欠陥のないものでなくてはなりません。主は完全なお方であるから、そのお方にふさわしいものが求められるのです。これはイエス様が十字架でご自身をささげられたことにつながります。神である御父は完全な方なので、ささげられうるのは完全なる御子しかないので。

その尊い救いをなしてくださった神様ですから、それ以外のものを拝むなら、全く的外れであり罪であるのは当然です。ここでは偶像だけでなく、「天の万象」も含まれています。これらは神様に造られたのですからすばらしいものですが、神様に取って代わるものではありません。主が与えてくださった善きもの、すなわち愛する人や尊敬する人、または能力や地位や名誉や財産などで、神様のようにになっているものはないか自己吟味してみましょう。すなわち神様のようにして依り頼んだり、従ったり、影響されているものはないか考えてみましょう。

この当時はまだ王はいませんでした。困難な事件は「さばきつかさ」によって判決がなされなければならないなりません。神様が社会に立てた秩序ですか

ら、それは、「守り行わなければならない」のです。現代も法治国家ですから、そこに神様の摂理があるとして、それが完全ではないとしても、尊重する必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



17:14 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地には行って、それを占領し、そこに住むようになったとき、あなたが、「回りのすべての国々と同じく、私も自分の上に王を立てたい。」と言うなら、
17:15 あなたの神、主の選ぶ者を、必ず、あなたの上に王として立てなければならぬ。あなたの同胞の中から、あなたの上に王を立てなければならぬ。同胞でない外国の人を、あなたの上に立てることはできない。
17:16 王は、自分のために決して馬を多くふやしてはならない。馬をふやすためだといって民をエジプトに帰らせてはならない。「二度とこの道を帰ってはならない。」と主はあなたがたに言われた。
17:17 多くの妻を持つてはならない。心をそらせてはならない。自分のために金銀を非常に多くふやしてはならない。
17:18 彼がその王国の王座に着くようになったなら、レビ人の祭司たちの前のものから、自分のために、このみおしえを書き写して、
17:19 自分の手もとに置き、一生の間、これを読まなければならない。それは、彼の神、主を恐れ、このみおしえのすべてのことばとこれらのおきてとを守り行なうことを学ぶためである。
17:20 それは、王の心が自分の同胞の上に高ぶることがないため、また命令から、右にも左にもそれることがなく、彼とその子孫とがイスラエルのうちで、長くその王国を治めることができるためである。

イスラエルには王は必要ありませんでした。神が治めるのだからです。しかし後に実際に起こったよ

うに、民は他の国をうらやましがり、王を欲しがったのです。それを見越して神様は王についての命令を明らかにされました。
気をつけるべきことは、軍馬に表されるように権勢と、多くの妻に表されるように情欲と、金銀に表されるように貪欲です。力を持つ者や指導的立場にある者はみなこの点で気をつかなくてはなりません。それらを求めるにあたっては、その情実になるようなことがたくさんあります。私たちはどんな口実が見つかったとしても、主の御心にかなうように行動するものでありましょう。

- ①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）
- ②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）
- ③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）
- ④この世にあって何を実践しますか？



18:1 レビ人の祭司たち、レビ部族全部は、イスラエルといっしょに、相続地の割り当てを受けてはならない。彼らは主への火によるささげ物を、自分への割り当て分として、食べていかなければならない。

18:2 彼らは、その兄弟たちの部族の中で相続地を持ってはならない。主が約束されたとおり、主ご自身が、彼らの相続地である。

18:3 祭司たちが民から、牛でも羊でも、いけにえをささげる者から、受けるべきものは次のとおりである。その人は、肩と両方の頬と胃とを祭司に与える。

18:4 あなたの穀物や、新しいぶどう酒や、油などの初物、羊の毛の初物も彼に与えなければならぬ。

18:5 彼とその子孫が、いつまでも、主の御名によって奉仕に立つために、あなたの神、主が、あなたの全部族の中から、彼を選ばれたのである。

18:6 もし、ひとりのレビ人が、自分の住んでいたイスラエルのうちのどの町囲みのうちからでも出て、主の選ぶ場所に行きたいなら、望むままに行くことができる。

18:7 彼は、その所で主の前に仕えている自分の同族レビ人と全く同じように、彼の神、主の御名によって奉仕することができる。

18:8 彼の分け前は、相続財産を売った分は別として、彼らが食べる分け前と同じである。

18:9 あなたの神、主があなたに与えようとしておられる地にはいったとき、あなたはその異邦の民の忌みきらうべきならわしをまねてはならない。

18:10 あなたのうちに自分の息子、娘に火の

中を通らせる者があってはならない。占いをする者、卜者、まじない師、呪術者、18:11 呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死人に伺いを立てる者があってはならない。

18:12 これらのことを行なう者はみな、主が忌みきらわれるからである。これらの忌みきらうべきことのために、あなたの神、主は、あなたの前から、彼らを追い払われる。

18:13 あなたは、あなたの神、主に対して全き者でなければならない。

18:14 あなたが占領しようとしているこれらの異邦の民は、卜者や占い師に聞き従ってきたのは確かである。しかし、あなたには、あなたの神、主は、そうすることを許されない。

神殿での祭儀は神様をあがめて従うことですから、暇な時に片手間にできるものではありません。そのためにそれを本業として働く者が必要です。現代もそのように神様から召された人々がいます。レビ人が「相続地」を持たなかったのは、耕作や牧畜に煩わされないためであったと思われます。

「主ご自身が、彼らの相続地である。」とありますから、フルタイムで召された者は主のみを頼りとしましょう。その主が「いつまでも、主の御名によって奉仕に立つために…」、民に命じられたことが成るなら、彼らの生活は成り立ちます。その民の信仰はやはり祭司による礼拝によって養われます。

異教や偶像礼拝がなぜ禁じられるか、その人道的な理由も明らかにされています。そこには悪霊が働くので、判断力、倫理観が狂うのです。「息子、娘に火の中を通らせる…」とは、狂気そのものです。焼け死ぬ子供たちの叫び声が親に聞こえないように、異教の祭司たちは大音響で偶像をたたえたとのことです。そのような偶像信仰のあり方として、占い以下のことが書かれています。

私たちはこれらを「忌みきらう」ものでありましょう。関連したものを持っていたり、行動があるなら、完全に捨てましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18:15 あなたの神、主は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない。

18:16 これはあなたが、ホレブであの集まりの日に、あなたの神、主に求めたそのことによるものである。あなたは、「私の神、主の声を二度と聞きたくありません。またこの大きな火をもう見たくありません。私は死にたくありません。」と言った。

18:17 それで主は私に言われた。「彼らの言ったことはもっともだ。

18:18 わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。わたしは彼の口にわたしのことばを授けよう。彼は、わたしが命じることをみな、彼らに告げる。

18:19 わたしの名によって彼が告げるわたしのことばに聞き従わない者があれば、わたしが彼に責任を問う。

18:20 ただし、わたしが告げよと命じていないことを、不遜にもわたしの名によって告げたり、あるいは、ほかの神々の名によって告げたりする預言者があるなら、その預言者は死ななければならない。」

18:21 あなたが心の中で、「私たちは、主が言われたのでないことばを、どうして見分けることができようか。」と言うような場合は、

18:22 預言者が主の名によって語っても、そのことが起こらず、実現しないなら、それは主が語られたことばではない。その預言者が不遜にもそれを語ったのである。彼を恐れてはならない。

「私の神、主の声を二度と聞きたくありません。またこの大きな火をもう見たくありません。私は死にたくありません。」というのは、民が火の中から語られる主の力を見たときに、恐れをなして言ったことばです。主の偉大さのほんの一部でも見るなら、誰もがこのように恐れるのです。それゆえ神様は「預言者をあなたのために起こされる。」と約束なさり、民と神との間を取り持つ存在を起こされると言われました。

その後さまざまな預言者が立てられましたが、その完全な存在はイエス様です。恐るべき神と人との間に入って、ご自分をささげてくださいました。

しかしまた旧約時代においては、人間の偽預言者が現れたのも事実です。その見分け方は「言者が主の名によって語っても、そのことが起こらず、実現しないなら」、それは神のことばではないということですから、偽です。

私たちが本物と偽を見分ける必要があります。何か人を驚かせるようなトリックではなく、人を救いに至らせるのが本物です。ですからイエス様を告白する霊が本物であるのです。霊を見分け、本当の神のことばを聞き分けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



19:1 あなたの神、主が、あなたに与えようとしておられる地の国々を、あなたの神、主が断ち滅ぼし、あなたがそれらを占領し、それらの町々や家々に住むようになったときに、
19:2 あなたの神、主があなたに与えて所有させようとしておられるその地に、三つの町を取り分けなければならない。

19:3 あなたは距離を測定し、あなたの神、主があなたに受け継がせる地域を三つに区分しなければならない。殺人者はだれでも、そこにのがれることができる。

19:4 殺人者がそこにのがれて生きることができる場合は次のとおり。知らずに隣人を殺し、以前からその人を憎んでいなかった場合である。

19:5 たとえば、木を切るため隣人といっしょに森にはいり、木を切るために斧を手にして振り上げたところ、その頭が柄から抜け、それが隣人に当たってその人が死んだ場合、その者はこれらの町の一つにのがれて生きることができ。

19:6 血の復讐をする者が、憤りの心に燃え、その殺人者を追いかけ、道が遠いために、その人に追いついて、打ち殺すようなことがあってはならない。その人は、以前から相手を憎んでいたのではないから、死刑に当たらない。

19:7 だから私はあなたに命じて、「三つの町を取り分けよ。」と言ったのである。

19:8 あなたの神、主が、あなたの先祖たちに誓われたとおり、あなたの領土を広げ、先祖たちに与えると約束された地を、ことごとくあなたに与えられたなら、

19:9 ・・私が、きょう、あなたに命じるこのすべての命令をあなたが守り行ない、あなたの神、主を愛し、いつまでもその道を歩むなら・・そのとき、この三つの町に、さらに三つの町を追加しなさい。

19:10 あなたの神、主が相続地としてあなたに与えようとしておられる地で、罪のない者の血が流されることがなく、また、あなたが血の罪を負うことがないためである。

19:11 しかし、もし人が自分の隣人を憎み、待ち伏せして襲いかかり、彼を打って、死なせ、これらの町の一つにのがれるようなことがあれば、

19:12 彼の町の長老たちは、人をやって彼をそこから引き出し、血の復讐をする者の手に渡さなければならない。彼は死ななければならない。

19:13 彼をあわれんではならない。罪のない者の血を流す罪は、イスラエルから除き去りなさい。それはあなたのためになる。

19:14 あなたの神、主があなたに与えて所有させようとしておられる地のうち、あなたの受け継ぐ相続地で、あなたは、先代の人々の定めた隣人との地境を移してはならない。

過失によって人が死んだ場合でも、被害者側からすれば恨みに思うものです。ただし主はその恨みにまかせて新たな殺人が起きないように配慮なさっています。人はその結果を見、また自分自身への被害や得を見ますが、神様は心を見られます。ですからもしも「待ち伏せして襲いかかり」というような故意であるなら、その心をご覧になり「罪のない者の地を流す罪は、イスラエルから除き去る」ように命じられるのです。

主の配慮が私たちの日常にも及ぶようにしま

しょう。すなわち、結果や自分への被害だけで人を見るのではなく、人の心で判断するようにならなさい。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



19:15 どんな咎でも、どんな罪でも、すべて人が犯した罪は、ひとりの証人によっては立証されない。ふたりの証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。

19:16 もし、ある人に不正な証言をするために悪意のある証人が立ったときには、

19:17 相争うこの二組の者は、主の前に、その時の祭司たちとさばきつかさたちの前に立たなければならない。

19:18 さばきつかさたちはよく調べたうえで、その証人が偽りの証人であり、自分の同胞に対して偽りの証言をしていたのであれば、

19:19 あなたがたは、彼がその同胞にしようとしてたくらんでいたとおりに、彼になし、あなたがたのうちから悪を除き去りなさい。

19:20 ほかの人々も聞いて恐れ、このような悪を、あなたがたのうちで再び行なわないであらう。

19:21 あわれみをかけてはならない。いのちにはいのち、目には目、歯には歯、手には手、足には足。

正義が重んじられる社会においては、特に正義を装った「偽りの証言」が注意される必要があります。無実の罪によって罰せられないためです。特に「悪意のある」者が自分の先入観や策略で証言した場合、これを見分けなくては社会が混乱してしまいます。

主は「ふたりの証人の証言、または三人の証人の証言によって」と規定しておられます。その上で祭司とさばきつかさが「よく調べ」とあります。主は被告の人権をも認めておられ、偏り見ない方です。

もしもそれが策略であった場合は、「彼がその同胞にしようとしてたくらんでいたとおりに、彼になし…」とあるのは、モルデカイを暗殺しようとしたハマンを思い起こさせます。

人を偏り見ることなく、正義が真実によって実現するように、日ごろから客観的な視点を持つような心がけましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

